



中名田っ子

小浜市立中名田小学校
令和元年11月25日
11月号

校庭にある銀杏の木が黄色に色づき、紅葉も見ごろとなってきました。朝晩の冷え込みも厳しく、各ご家庭では冬支度も始まっていることと思います。インフルエンザも流行る時期となりました。規則正しい生活をして、元気に過ごせるようお子様の健康管理をよろしくお願いいたします。



先日、へき地複式の研究大会がありました。この大会は福井県指定の研究大会で、県の教育委員会をはじめ県内から約80名の人が学校にやってきました。1・2年生は道徳、3・4年生、5・6年生は算数の授業を見ていただきました。大勢の人たちに囲まれて授業を受ける経験が少ないため、児童は緊張して自分の力を発揮できないのではないかと心配しましたが、極度に緊張することもなく、落ち着いて授業に取り組み、みんなで力を合わせて課題を解いたり、自分の意見をしっかりと発表したりと素晴らしい姿を見せてくれました。見に来られた人の中に*文部科学省の調査官もおられ、中名田小学校の子どもたちの素晴らしいところがたくさん見られた研究大会だったと口にしておられました。この研究発表は2年間の取り組みでしたが、今後も一人一人の児童の成長を願い職員一同取り組んでいきたいと思っています。*文部科学省初等中等局 教育課程課教科調査官 上野耕史氏

参加した人たちから多くの賞賛の感想をいただきました。一部紹介します。

- 「中名田はいいところ」の歌に、とても感動した。低学年の児童の声もなじんでいてすごいと思った。
- 太鼓の発表は、学年が上がるにつれてだんだんと上手になっていて学年差を感じられてよかった。
- 元気な挨拶が気持ちよかった。
- 子どもたちが、愛着をもって日々過ごしていることが伝わった。
- さっと子どもたちが課題に取り組める雰囲気すばらしい。
- 子どもたちの挨拶がすばらしかった。児童の歌と太鼓が大変良かった。
- 中名田小学校の児童がとても元気で、ものおじないところが素晴らしいと思いました。
- 子どもたち同士で意見を出し合って素晴らしいと感じました。教員が手をかけすぎないことが大切だと学ばせていただきました。
- どの子も自分の考えをしっかりと持って授業でも自分の意見を出し合っていてすばらしいかったです。
- 自分の姿で一生懸命考えを伝えようとする姿がすばらしかったです。
- 「中名田はいいところは」すてきな歌でした。きっと歌い継がれていこうと思いました。
- 子どもたちが素直で元気ででのびのびした印象を受けました。



よく考え、自分の意見がしっかり言えていました。

ご意見・ご感想をお聞かせください。

..... (キリトリセン)

保護者の声 年 組 保護者氏名

迷い

今月一日に萩生田文部科学大臣が「大学入試英語成績提供システム」の導入を見送ると発表しました。そして二十日後の二十一日福井県教育委員会が、高校入試における英語検定の加算制度の廃止を決定しました。これらの決定を受けて、これから高校受験や大学受験を受ける日本中、そして県内の受験生はさぞ驚いたことでしょう。英語に関しては、小学校の英語は来年度から日本の全ての学校で教科になります。(福井県は前倒しで昨年度から教科に踏み切っています。)。英語教育に関してだけでも、二三年で大きな変化の時期にきています。このように、子どもを取り巻く環境が大きく変化しています。教育環境だけではなく、生活環境に至るまで日々変化をしている中、変化にうるたえて自分を見失うことがないよう、たくましく生きて欲しいと願うばかりです。そのためには、変化に対応する適応力や周りの人と協力して壁を乗り越える力、あるいは、思うようにならないときに違った角度から物事をとらえる力など様々な力が必要になってきます。子どもたちは、日々の生活の中で、色々な体験をして様々な力をつけています。時には、あまり考えずに行動して失敗することもあります。トラブルを起こすこともありません。失敗することもたくさんあるでしょう。でも、その失敗から多くの学びがあり、自分で解決していく力や耐性が身についているのだと思います。ところが、わが子や身内になると、失敗から多くのことを学んで欲しいと思っても、困らないように、失敗しないように大人が先回りをしてしまいます。

つい最近の私がそうでした。私には小学一年生の孫がいます。先日、息子夫婦が孫を連れて家に来てくれました。久しぶりに会えた嬉しさと、つつい孫につらい思いをさせたくない気持ちがいつい、先回りをして口を出したり、手助けをしてしまったりと何から何まで手を出してしまいました。それを見かねた主人が、「そんなに甘やかしては、日常生活で孫が困る。いつも、手助けしてくれる人がいるわけではないので」と、ぼつんと言いつつその場を去って行きました。人は人に助けられながら生きていますが、自分ひとりで困難に立ち向かう場面にも数多く出くわします。そんな時に自分で困難を乗り越えられるように、子どもにどのような失敗をさせるか、どのように切り抜けさせるかを考えさせることは、とても大切なことではないかと思いました。保護者の皆様も、たくましく育てたいのだが、つい手を差し伸べてしまったり、突き放すタイミングがわからないと迷ったりすることは多いでしょうか。子どもが大人になる数十年前先を見据えることも大事ですが、一年先の子ども姿を想像して、今の子どもの関わりを見つめ直す良いと聞いたことがあります。今の関わりが一年後の子ども成長に繋がっているか、また、一年後、子どもが困らないで生活できる力を身につけられるように接しているかなどを考えて関わることで、子どもの自立心が育つのだそうです。

少人数の学校で働く私たちにも、心に刺さる言葉だと痛感しました。迷いと戦いながら、頑張っていきます。

